

# 浜松鷺長会報

Vol.164 2018. 04. 01

馬を走らせて 西来 天に到らんと 欲す  
 家を辞してより月の両回 円かなるを見る  
 今夜は知らず何れの 処にか宿せん「磧中の作」  
 平沙 万里 人煙 絶ゆ 岑参 129p

## 関西吟詩の会員状況

昨年度当初会員数 12,266 人  
 入会者目標 (会員数の 12%) 1,552 人  
 2 月末現在入会者数 734 人

入会 全会員数  
 最大入会者数 華洲会 44 名 (406 名)  
 入会者数 0 名の会が 60 会  
 会の総数 226 会  
 目標達成の会 23 会  
 鷺長会の昨年度入会者数 8 名は 21 番目  
 各会共厳しい状況にあります。  
 総本部の今期会員数は後日お知らせします。



平成二十九年度 東明未来塾が鷺長会より五名の参加があり 三回にわたり吟詠技術・歴史・漢詩等の講義をうけ 終わりに総本部会長より修了証授与



短歌一題  
 薄鈍の色おとしたること 夕かけて  
 酔いどれ  
 船陰編むは 波のよこ糸

**会員状況** 3 月末の会員状況がまとまりました。 昨年度は 8 名の入会でした。  
 浜松支部 35 名 曳馬野支部 44 名 犬居支部 14 名 湖西支部 17 名  
 和支部 49 名 遠江支部 15 名 西山支部 12 名 (幼少年を除くと 178 名)  
 (合計 187 名 内幼少年他 9 名) 21 名減 幼少年が 6 名減で一般は 15 名減です。  
 (昨年的人数から大幅後退しました。今年度は挽回をしたいですね！)

◆鷺長会開催 H30 年 ☆鷺長会総会 4/22 (日) 13~ アイティ  
 ☆指導者講習会 4/14 (土) 13~16 浜松アイティ ☆昇段試験 4/28 (土) 9~12 アイティ  
 ☆鷺長会講師会 5/26 (土) ☆鷺長会吟行 5/27 (日) 名古屋 (トヨタ産業記念館・城・美術館)  
 ◇各会今後の予定 H30 年 ☆中部地区連協幹事総会 4/21 (土) ウイング愛知  
 ☆白鷺競吟の集い 4/8 (日) 尼崎エリック ☆剣詩舞コンクール県大会 5/13 (日) 島田プラザ おおるり  
 ☆吟詠コンクール県大会 5/20 (日) 清水ふれあいホール ☆総本部代議員総会 6/2 (土) 大阪  
 ☆東海地方昇格試験 6/17 (日) 賀城園 (昇格試験終了後・東海地区常任理事会を開催)  
 ☆ポリトル吟詠会中部地区予選 7/1 (日) 9~17 コンクールと研修会 浜松地域情報センター  
 ☆第 50 回浜吟連吟詠大会 7/22 (日) Uホール  
 ☆全国吟詠コンクール中部地区大会 7/16 (月・祝) 岡崎市せきれいホール  
 ☆第 38 回浜松市民吟詠会 8/5 (日) 曳馬協働センター予定

☆ 財団 全国吟詠コンクール静岡県大会出場者  
 (本年 14名 昨年 11名 一昨年 11名)  
 一般二部 入賞 鈴木千尋、星川晴美  
 一般三部 準優勝 紀野 実知子、三位 森下ふで子  
 入賞 柴田みね子、武田年晃、牧田章悟、大石 猛、  
 嶋野美佐子、鈴木通予、中瀬泰明、森谷敏之  
 一般四部 優勝 村瀬智恵子 三位 上田九重郎、  
 (入賞、はプログラム順)



☆ 西部地区大会 奨励賞の受賞者  
 一般一部 水野由章、水野 薫、  
 一般二部 芳賀恵子、太田士郎 一般三部 杉本嗣夫、  
 5/20 (日) 静岡市清水ふれあいホール  
 中部地区コンクール出場を目指しましょう！！



ポリドール吟詠会中部地区予選 参加者募集 多くの参加をお願い致します。  
 此の予選会の大きな目的はコンクール後の研修会で、浜松地区の吟詠のレベルアップです。  
 多くのご参加をお願い致します。 場所 浜松地域情報センター  
 予選は 日時 平成 30年 7月 1日 (日) 予選会参加費 3,000円 (昼食付)  
 特別個人講習は実費 申し込み先は 中部地区事務局 飯田報鶯 (FAX 576-1598)



〈遊芽野〉  
 1. 作者略伝  
 菅茶山 1748~1827 79才歿 江戸後期  
 備後神辺(今の広島福山市)に生まれる。長じて京都・遊学し、のち  
 故郷神辺に塾をひらき 菅茶山陽村舎と名づける  
 2. 生地神辺  
 広島県東部にあつた福山市に北隣。現在は工業も盛んな  
 果境の農業の町で 昭和20年町制となり 昭和19年近隣  
 五村を合併。中史を芦田川支流の高屋川が流れる。城は  
 県下の穀倉地帯「備後か利」中心地の一つ。  
 中世は城下町で山陽道の宿駅でもあった。菅茶山の  
 「菅茶山陽村舎」は特別史跡として昭和20年指定された  
 3. 字解  
 一目千株…一目千本といふことと同じで…は数限りなく多い意  
 唯…唯は白い霜雪などの白い色をいふことには桜花満開の  
 さきさきの降りしける姿に似ての形容。  
 香雲…桜の花の形容。出来「花」を雪や雲に形容して破る。  
 團圓…そのあたり。その組。一舟、かたがりの意。  
 4. 詞の構造  
 漢字の一字一字には意味があり同じ語の方であつても用途を異にする。  
 見る…物ごとを目で見る。見物、見学など  
 看…みる。手を合わせてよくみる。看護、看守など  
 視…気がつてみる。のぞく、うかがう。注視、横視、視察など  
 観…みわたす。眺める。念をいれてみる。観劇、観覧など

詩吟紙芝居 芳野に遊ぶ 菅茶山  
 絵 説明 飯田報鶯

第三 溪流に伏す形 (羊腸) に似る名を取つて溪流に沿う道は、曲がりくねつた岩場道(想定で注記しました)  
 1 かわいそうな貴方 自分の修行の道が曲がりくねつて遠いように  
 2 道に従うことから遁れては、長くだらつとした(なまけた) 雲と一緒にようだ  
 3 言葉をかけてくれることも少なく  
 分かれ道で泣く人を  
 4 きわめて長い間 忘れないで  
 覚えて 居られ得るだろうか  
 (修行中の姿に擬えている?)

方広寺十景  
 十景第三 羊腸石 (ようちようせき)  
 溪流に伏せつて形が (羊腸に) 似ていることから 名を取つた  
 あわ 儂れ爾が 恰も吾道の迂如し  
 のがれ なが 長く 懶雲と俱たり  
 眺み遁て 多少 岐に泣く者  
 言を寄す 亡せず 記得るや無きや



## 「むめ一輪一りんほどのあたたかさ」について考える 遠江支部金原修潜

上記はご存知、松尾芭蕉の高弟「服部嵐雪」の句です。花は清楚で気品があり、香りも清々しく寒気を侵して百花に先んじて花を開くところから、古来多くの文人に愛されてきました。「梅咲きぬ どれが梅(むめ)やら梅(うめ)じゃやら」。こちらもご存知「与謝蕪村」の句です。この2句をご紹介したのは、今回「梅」の読み方について考えてみたいと思いました。

「梅」の学名は「PLUNUS-MUME」と言い、言語学者の説によると、読み方は古代「うめ」→中世「むめ」→現代「うめ」と変遷してきたとのこと。夫々の時代の名句をご紹介しますと、古代は・菅原道真の「東風吹かば句いおこせよ梅の花 主なしとて春な忘れそ」中世になると標記の「むめ一輪・一りんほどの・あたたかさ」で、現代は夏目漱石の「あざやかに・一りんづつのうめの花」と、変遷して来ているとのこと。諸説あるようですが、明治になり「正岡子規」との親交が深く「漱石」という俳号を持つ夏目漱石が「梅」と詠み、以後「うめ」が定着した、とされています。2月5日浜松市地域情報センターで「浜松地区吟詠研究会」・「講演と吟詠研修会」が開催され、勉強のため参加させて頂きました。第四部に吟詠講習「俳句の吟法と吟詠」がありました。題目は9句あり、夫々「吟法と吟詠」について模範吟による指導がありました。時間の関係で、標題の嵐雪の「むめ一輪...」の句の前で打ち切られました。

俳句は、作者の「文言葉(作者の書いた字句どおりに掲載されるもの)と思っておりましたところ、配布された資料は「梅一輪 一輪ほどの 暖かさ」となっており、びっくりしました。

質問して見解を伺い・ご指導を頂きたいと思いましたが、時間がなく質問も出来ず残念な想いをしました。

帰宅後早速、横田正知編「写真・俳句歳時記・春」を確認してみるとやはり「むめ一輪一りんほどのあたたかさ」でした。また、後日立ち寄った書店で、飯田蛇笏・水原秋櫻子編の平凡社「俳句歳時記・春」他を確認すると、標記の「むめ一輪...」の句のとおりでした。

この投稿は「むめ」なのか、「うめ」なのかを云々するものではありません。殊・俳句については、思いを込めた作者の一字一句の「文言葉」は尊重されるのが望ましいのでは」という個人的見解を述べさせて頂いたものです。

この拙文をご覧いただきました方で、嵐雪の「むめ一輪 一りんほどの あたたかさ」に関するご見解・ご指導を頂けると大変有難いです。



四月会員漢詩

庚韻

惜春 鳩野美佐子  
檐頭雙燕育雛聲  
影綠竹陰旅思驚  
何処東君留不得  
落花悵望惜春情

檐頭の雙燕 育雛聲  
影緑にして竹陰 旅思驚く  
何の処ぞ 東君 留め得ず  
落花 悵望 惜春の情

檐頭 のき先  
東君 春の女神  
悵望 悲しげに遥か遠くを眺める



井伊谷宮の池に花びらを散らしていました。今年桜 3/29

四月会員漢詩

灰韻

春日遊山寺 袴田哲郎  
香台緩歩訪花来  
風暖春光砌下苔  
来賽僧堂清浄地  
芳菲老樹隔塵埃

香台 緩歩 花を訪ねて来たり  
風暖 春光 砌下の苔  
来賽 僧堂 清浄の地  
芳菲なる老樹 塵埃を隔つ

砌下 石段



都田川沿いで数人の方が桜をカメラに収めておりました 3/28

四月会員漢詩

真韻

春日作 後藤忍  
携朋歸省故山春  
消雪風和天地新  
爭發櫻花惟一白  
難籬共坐鳥声馴

朋を携え歸省 故山の春  
雪は消え風和ぐ 天地新なり  
争い発く櫻花 惟一白  
共に坐し籬れ難し 鳥声に馴しむ



龍潭寺仁王門の桜 2018-3

四月会員漢詩

真韻

晚春惜花 花筏 B  
草堂独坐 餞徂春  
一片陣狂風 幽恨新  
悄然我亦 惜花人

草堂 独り坐す 徂春を餞す  
一陣の狂風 幽恨 新なり  
片片たる 飛紅 留め得ず  
悄然我亦 花を惜しむ人



龍潭寺 (井伊谷) 2018-3-29 今年静かです



